



## 2022年度通常総会開催の報告

2022年度通常総会を6月25日（土）にオーテピアで開催しました。昨年、一昨年は新型コロナウイルス感染症対策のため書面決議で行っていたので、3年ぶりに集合して顔を合わせての開催となりました。

活動会員37名のうち、出席15名と委任状提出17名により総会は成立し、2021年度活動報告及び収支決算、2022年度活動計画及び収支予算を承認いただくとともに、任期満了に伴い、今期の理事及び監事を選任いただきました。

2021年度もコロナ禍の影響により、電話開設に当たって人数制限を行うなどの感染対策に配慮しながら子どもの声を聴く活動を行いました。開設日はコロナ禍以前の7割程度の58日、受信は970件でした。チャイルドラインカードは、夏と秋に学校を通じて子どもたちに配布しました。また、受け手・支え手の継続研修は、感染状況を見ながら対面とオンラインを使い分けて開催しました。

2022年度は、新たな受け手を増やすため、3年ぶりに第9期受け手養成講座を開催するほか、2年間延期した10周年記念講演会も開催する予定です。

2021年度の収支決算は次のとおりです。大口の寄付を含む多くの方からの寄付金をいただいたこともあり、当期収支差額は136,951円のプラスとなっております。感謝申し上げます。

2022年度も子どもたちの声を聴く活動を中心に、よりよい活動ができるように実践してまいりますので、ご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

①収入合計：994,673円	会費収入	301,000円
	寄付金収入	485,400円
	その他（助成金他）	208,273円
②支出合計：857,722円	事務所費	276,000円
	事務費・通信費等	403,600円
	広報費（カード配布他）	178,122円
③収支差額（①-②）		136,951円
④前年度繰越金		639,201円
⑤次年度繰越金（③+④）		776,152円



小学生向けカード



中高生向けカード

## 受け手継続研修を開催



7月9日（土）に2022年度1回目の受け手継続研修を行いました。参加者は12名でした。下記のような内容に関して学び合いました。

- ①子どもが置かれている状況
- ②チャイルドラインにかけてくる子どもたち
- ③事例

①は最近起きた事件などに関わった、またはニュースを見た子どもたちの気持ちを考えること。②は電話をかけてくる子どもたちの背景、心情などを想像することの大切さについて。そして、無言が長い時の対応については「大丈夫？」「話せる？」などの声かけ、無言の間も相手の気持ちに寄り添い待つこと、などの意見が出ました。③は実際にあった事例を使い「クラス替えがあって友だちができるか心配だった…」という内容の電話を、子ども役と受け手役に分かれてシミュレーションしました。「子ども役をしてるうちに自然と自分の悩みを言っていた」「やわらかい声に安心感を感じた」「同調してもらえることで安心した」など、子ども役をしてみても気づいたことがありました。また「どうしたらいい？」という問いかけを何回もされると返事に困る、という受け手の意見もありました。

子どもに寄り添うことの大切さを再確認し、子どもたちが安心して話せる場所を作っていこうと、皆が心を一つにできた研修でした。

## カードを配布

7月に県内の小中学校を通じて子どもにチャイルドラインカードを配布しました。子どもの悩みが多い夏休み期間や2学期開始時にチャイルドラインのことを知ってもらうために配布したものです。

また、中国・四国エリアでチャイルドラインを実施する10団体が協力して、8月28日（日）16時から9月4日（日）21時まで24時間体制で子どもの電話を受けるキャンペーンを行うこともカードに記載しています。

## ご寄付のお礼（2022年1月～7月）

ご寄付をいただいた皆様をご紹介します。皆様のご理解とご支援に感謝申し上げます。

### <企業・団体の皆様>

- 国際ソロプチミストよさこいこうち様 30,000円
- 内田文昌堂様 10,000円
- 食家「雅」様 6,000円（寄付つきメニューより／昨年10月～3月分）

### <個人の皆様>

明石友子様、大崎博澄様、星野勝英様、ほか匿名1名

本会の活動・運営は、会員の会費、皆様の寄付等により成り立っています。今後ともよろしくお願いいたします。

### ◆会員数（2022年8月1日現在）

活動会員 36人  
支援会員 36人・団体

# 2022～2023 年度理事・監事のみなさんをご紹介します。 よろしくお願ひします。

## 理 事

(代表・副代表・会計・事務局長のほかはアイウエオ順に紹介しています。)

ほんじょうきんし  
本淨 謹士



代表

以前、受け手養成講座でお話しさせていただき、その後理事となり今に至っています。2001年から高知で小児科診療に携わる一方、発達相談を通じて困難さを抱えたこどもと保護者の対応を行なっています。当会と並行して、県内の支援者の関係づくりとスキルアップを目的とした団体である、子育て支援ネットワークほっとぼーとこうちの理事として活動しています。

(再任：2014～2021 年度理事)

くれちョンへ  
呉 静恵



副代表

ナイチンゲールの精神に憧れ、看護師に。3人の子育てを体験。2005年から人権教育等の講演活動。2007年から若者サポートステーションで不登校・引きこもり支援。また、家庭教育サポーターとして心の教育センターの電話相談員を務め、2010年たんぼぼ教育研究所で相談活動を行い、夫の両親を介護した体験から在宅で看取る事の大切さを学び、2015年でのひら訪問看護リハビリステーションを設立。

(再任：2010～2021 年度理事)

のむらわか  
野村 和可



会計

PTA活動や子どものスポーツ活動に精を出した約18年間。その活動の中で大崎博澄さんと出会いました。その一つがチャイルドラインこうち設立準備会。自身の活動や仕事が忙しく、設立後は参加できないまま時間が過ぎました。子どもが巣立ち、自身の生活を見つめ直した時、これからの人生に新たな取組をプラスしたい思いが募り、チャイルドラインにも自分のできる範囲で関わりを持ちたいと、2018年より広報部会で活動に参加するようになりました。

(再任：2020～2021 年度理事)

はんだまさのり  
半田 雅典



事務局長

1994年(福)高知県社会福祉協議会に就職し、ボランティア活動の推進、NPOの支援及び福祉人材の確保・育成等に携わっています。1998年高知豪雨、2011年東日本大震災など大規模な災害が発生した際には、災害ボランティアセンターの立上げ・運営に関わってきました。現在は地域支援グループ長(兼)高知県ボランティア・NPOセンター所長。2011年から2019年までNPO法人NPO高知市民会議の副理事長を務めました。

(再任：2014～2021 年度理事)

いけみき  
池 美季



看護師。1980年より土佐病院、精神科勤務。1990年退職して、育児を主に過ごし、1999年高知市医師会急患センターの平日夜間小児に従事する事となり、小児研修の中で呉理事と出会いました。2011年の東北震災の日より高知子ども救急ダイヤルに8年従事。チャイルドラインこうち高知開設メンバーで現理事。2020年6月より一般社団法人FHA開設。地域の家庭と医療の間の架け橋となる家庭急病ダイヤルをオープン。

(再任：2010～2021 年度理事)

かわくぼたから  
川窪 財



2001年広告代理店を退社後、起業と同時にこどもに関するボランティア活動等を始めるなか、話を聞く力の重要性を感じ、わもん(話聞)を学びながら2011年話の聞き方教室「井戸端わもん」を高知で開始。2014～15年、東北で被災地の住民の話を聞く慈善活動を行いました。2016年NPO法人井戸端わもん設立。理事長就任。現在も話の聞き方講師として各地で活動中。2022年広島県福山市にこころの居場所ふくやまを開設。(再任：2012～2013、2020～2021 年度理事)

なかむら  
中村 ささみ



1975年～2005年県立病院勤務。特に「未熟児室(当時の名称)」勤務時は、子どもの権利、母子関係に関心を抱くように。定年退職後2005年、高知県看護協会勤務。子どもに関する事業としては、高知県の委託を受け「#8000」の夜間子ども救急医療電話相談事業の組織化、運営に取り組みました。看護協会退職と同時に、当会の理事に就任。カード配布、学校訪問、寄付金募集活動等、広報部員として現在に至っています。

(再任：2012～2021 年度理事)

ひらやま ゆきえ  
平山 幸恵



高度成長期に安芸で生まれ、おばあちゃんっ子で育ち、家庭＝祖母は、自分が自分である居場所でした。バブル期20代、大阪の幼稚園で大好きな子どもたちから学ぶ日々&自分を生き、バブル崩壊後安芸で妻・母となり、30代子育てを楽しみました。仕事と子育ての傍ら、40代PTA活動に始まり、学びを求めて西東、人の縁に導かれチャイルドラインへ辿り着き、50代ライフワークとなりました。めざすは子どもたちの心の居場所なり。

(再任：2020～2021 年度理事)

もりおかまさとし  
森岡 真秋



高知市役所で商工振興、環境、まちづくり、教育委員会部局等を経験し2022年3月に退職。同年6月から(公財)高知市都市整備公社専務理事就任。市職在任中から様々なボランティア活動に従事し、1990年からアースデイズ高知、1997年から高知市まちづくり未来塾、2009年からとさっ子タウン等の活動を継続。2011年からNPO法人NPO高知市民会議の理事を務めた。(2013年4月に受託関係課異動のため辞任)

(新任)



## 監 事

おかだかつみ  
岡田 一水



1996年株式会社高知銀行に入行。2017年度より高知大学特任准教授、2022年度より高知大学客員教授としてキャリア教育に従事。高知県内の小中高等学校や大学などの教育機関と連携し、主に金融教育やコミュニケーション力、思考の多面的展開などのキャリア教育支援も行なっています。また、地域活動の一環として、様々なボランティア活動にも従事するなど、幅広い活動を行なっています。(再任：2016～2021 年度監事)

のむら  
野村 ひとみ



2010年3月高知市役所を退職、引き続き初月ふれあいセンターやソーレに勤務。ソーレ退職後は、貢献をテーマに自分の好奇心のおもむくままボランティア活動や住民参加によるまちづくりに取り組んでいます。特に、高知出身の奥村多喜衛、ハワイと高知の交流、男女共同参画に関する事は熱心に取り組んでいます。2017年からスクールカウンセラーとして週2回程度学校に関わっています。(再任：2016～2021 年度監事)